

第1章

市川三郷町の景観特性と課題



第1章 市川三郷町の景観特性と課題

1. 市川三郷町の概況

(1) 町の概況

本町は、甲府盆地の南西に位置し、東部は甲府市、北部は中央市と南アルプス市、西部は富士川町、南部は身延町にそれぞれ接した、豊かな自然環境に恵まれた田園都市です。

蛾ヶ岳をはじめとする御坂山地西端の山々を後背に擁し、町の北側から西側には笛吹川や富士川が流れ、これに合流する芦川の扇状地や河川沿いの平坦地に市街地が形成され、河川や幹線道路に沿いに集落地が立地しています。

JR 身延線が町を南北に縦断し、町内には7駅があり、町民の重要な足となっているとともに、車窓にはローカル線の趣と魅力ある風景が展開しています。鉄道にほぼ並行して主要地方道甲府市川三郷線などの幹線道路が走り地域間を連絡しています。また、中部横断自動車道増穂ICが近接し、今後、中部横断自動車道（仮称）六郷ICの整備により、地域の発展が期待されています。

本町は、こうした立地条件や御坂山地の山々の森林景観、町の北西部を縁取る笛吹川、富士川等の河川景観、四尾連湖や芦川渓谷の潤いある水辺景観、丘陵地や高台からの甲府盆地や周辺の山々を一望する優れた眺望景観など、豊かな自然環境と四季折々の美しい景観を有しています。

一方、本町は山梨県の古代文化発祥の地、甲斐源氏発祥の地といわれ、富士川舟運や千年の歴史を持つ和紙、日本有数の花火の産地、篆刻の技術と歴史を誇る生産高日本一の印章、養蚕などの伝統産業が栄え、地域の中心として発展してきた歴史と文化を有しています。

この、和紙、花火、印章といった伝統産業は全国的にも知られ、本町の重要な文化資産となっています。また、基幹産業である農業は、グリーンツーリズムの展開など新たな交流文化を育てています。

■市川三郷町の広域的位置



(2) 町の成り立ち

■古代

本町の起源は古く、山梨県の古代文化発祥の地といわれており、葛籠沢の石仏遺跡や大木の宮の前遺跡、大塚の北原一帯からは縄文・弥生時代の貴重な文化遺産が多数出土しています。特に、曾根丘陵付近には大塚古墳やエモン塚古墳、鳥居原狐塚古墳、伊勢塚古墳などの古墳が集中しています。

平安時代に入ると、市河荘、岩間荘といった荘園が置かれ、大集落が営まれるようになり、甲斐の国から朝廷に紙や紙の原料となる麻を貢進したと文献に記されており、すでに市川を中心に和紙の生産が行われていたことがうかがえます。



・伊勢塚古墳

■中世

市川は甲斐源氏発祥の地と言われており、源義清が館を構えたとされる平塩の岡には甲斐源氏旧蹟碑が建てられています。また、武田信玄の時代には、現在の蹴裂神社・歌舞伎文化公園の一帯に、信玄の弟にあたる一条信龍の館があったとされています。

また、甚左衛門という人が紙の技術に優れ、市川和紙に改良をもたらしたとされるほか、信玄の時代の烽火が市川の花火産業の始まりになったとされています。



・平塩の岡

■近世

江戸時代に入ると、富士川舟運が運行され、黒沢には鰍沢、青柳とともに河岸がおかれたことから、当地は甲州一円から松本諏訪藩に至る物流の要衝としてかなりの活況をみせたほか、岩間陣屋や市川陣屋が置かれるなど、河内、巨摩、八代郡を支配する行政の中心地でもありました。

武田信玄時代はその庇護のもとに置かれていた市川和紙は、江戸時代にも幕府の御用紙となり、世襲の肌吉衆によって漉き継がれました。

また、岩間一帯への灌漑のため、岩間堰の開削や岩間足袋の起業もこの時代に行われています。



・市川陣屋跡

■近代・現代

明治初期の甲府の水晶加工技術業の発展に伴い、水晶印の行商から始まった印章彫刻技術は、町の基幹産業に発展しました。また、この時代、一瀬益吉氏によって桑の最良品種である一瀬桑が発見され、以降、奨励品種として全国の養蚕業発展に貢献しました。

明治以降の区政や郡区町村編成法などにより合併が進み、昭和29年から31年にかけてのいわゆる昭和の大合併により、旧三珠町、旧市川大門町、旧六郷町が誕生し、平成17年10月1日、3町の合併により、市川三郷町が誕生しました。



・印刻

(3) 地域の景観概要

■三珠地域



・ 芦川溪谷



・ 歌舞伎文化公園

- 三珠地域は、御坂山地の北稜と南稜の山並み、これらに挟まれた芦川溪谷の溪流景観、みはらしの丘と呼ばれる丘陵地の農山村景観、丘陵地からの眺望景観や美しい夜景、河川沿いの平坦地に広がる豊かな農地景観、山の辺に連坦する集落景観などに特色があります。
- 三珠地域は曾根丘陵の西端にあたり、一帯は山梨県の古代文化の発祥の地といわれています。波場公園周辺は、甲府盆地が湖水であった頃の「船つき場」とも言われており、高台に位置する公園からの眺望は、みたまの湯からの眺望とともに本町を代表とする眺望景観となっています。
- 駿州往還の街道筋に集落が発達し、武田信玄の時代には上野城が置かれ、現在は、歌舞伎の名門・市川團十郎発祥の地にちなみ歌舞伎文化公園が整備されています。
- 「のっぴい」と呼ばれる豊穰な土地は、かつては「一瀬桑」で名をはせましたが、現在は、「大塚にんじん」や「甘々娘」の市川三郷町ブランドで知られています。緩やかな丘陵地の農地や、広々とした大塚田んぼなどの優良農地の風景は、本町の代表的な農村景観となっています。

■市川地域

- 市川地区は、蛾ヶ岳や四尾連湖周辺の豊かな自然景観、山保や八之尻の山合いに立地する山村集落景観、高台からの眺望景観、中心市街地のまちなみ景観などに特徴があります。
- 芦川の扇状地に発達した本町の中心市街地は、かつては富士川舟運の要衝として市川陣屋が置かれ、これを中心に地場産業が発展し、旧家、ひや、水路網など、舟運や街道筋の面影を残すまちなみ景観をみることができます。
- 平塩の岡周辺は、甲斐源氏発祥の地といわれ、市川地区成り立ちの礎となった多くの史跡、歴史資産が身近に点在しています。
- 水が育んだ一千年の歴史を誇る「市川和紙」と、武田氏時代の烽火が始まりといわれ、山梨県下一の規模を誇る「神明の花火大会」は市川地区のイメージを牽引する代表的な心象景観です。また、「市川百祭り」といわれるほど多くの祭りや伝統行事が受け継がれ、イベントや祭りの賑わい景観も市川地域の特色のひとつとなっています。



・ 市街地を流れる水路



・ 神明の花火大会

■六郷地域



・網倉からみた六郷地域の眺望



・岩間地区のまちなみ

- 六郷地域は、北東西の三方を山地に囲まれ、富士川沿いの平坦地に小さな市街地と農地が広がる、谷合の小盆地的な農山村景観に特色があります。
- かつて富士川舟運により鰻沢・黒沢・青柳の3河岸が開かれ、物流の要衝地として岩間陣屋が置かれ、岩間堰の開削や「岩間足袋」が起業された歴史を有していますが、当時の面影はあまりみられません。
- 県内で甲州水晶が産出され、これを素材として篆刻の技術が生まれ、「はんこの郷」として印章の生産量が名実ともに日本一を誇る産地となっています。現在においても日本最大のはんこの展示や印章資料館、印章店の看板などに地場産業の景観をみることができます。
- 各地に点在するそれぞれの集落では、獅子舞や虫送り等の伝統行事や風習が受け継がれ、ふるさとの風景を想起させる風物詩となっています。
- また、ホタルやカタクリの群生、寺所の桜などの豊かな自然環境を象徴する景観、ダイヤモンド富士等の眺望景観、のどかな里山のたたずまい、「おかぶと造り」と呼ばれる養蚕農家の集落や昔ながらのまちなみ景観が残され、趣のある郷土景観を呈しています。

■3つの地域



2. 市川三郷町の景観特性

市川三郷町の景観特性は、現況調査結果から景観的な基調や骨格を成す主要な景観（＝「市川三郷町らしさが現われている景観」）と、これに地域らしい特色を添えている主要な景観（＝「暮らしや営みが映し出されている景観」）に分類し、下記に示す11の景観特性を整理しました。

■市川三郷町の景観特性

●市川三郷町らしさが現われている景観

- ①山紫水明を象徴する多彩な水辺景観
- ②複雑な地形が生み出す多様な山地景観と森林景観
- ③盆地や山並みの優れた眺望景観、美しい夜景
- ④のどかな田園景観と里山が一体となった農山村景観
- ⑤山梨県の古代文化の発祥、甲斐源氏発祥の面影を残す風景
- ⑥歴史文化資産が自然や暮らしにとけこんでいる風景

●暮らしや営みが映し出されている景観

- ①地域の成り立ちや暮らし方が色濃く残る市街地景観
- ②古くからの農村集落景観と新しい景観が併存する郊外部の景観
- ③里山に抱かれて寄り添う中山間地域の集落景観
- ④交流を育む道路や公園などの施設の景観
- ⑤祭りの賑いや彩りある四季の風景



・四尾連湖の紅葉

(1) 市川三郷町らしさが現われている景観

①山紫水明を象徴する多彩な水辺景観

笛吹川、富士川、芦川などの河川は本町の景観の骨格を形成するとともに、湖沼、渓谷や沢筋などの清らかな水辺の風景、まちなかの水路網のせせらぎなど、多彩な水辺景観が身近に存在しています。



・富士川の流れ



・千波滝

- 富士川は、三川落合と呼ばれる川の合流を繰り返し、本町西部で甲府盆地の水をひとつに集め、山峡を流れ下るダイナミックな河川景観をみせています。この他、町内には、暮らしに身近な小河川などの水辺空間や小水路が縦横に流れ、清流を身近にみることができます。
- 御坂山地の主峰黒岳を源流とする芦川は、長い渓谷を形成しており、本町では千波滝や湯桶の釜周辺などが景勝地となっています。こうした渓流景観は四季折々の変化をみせる森林景観とあわせ、多くの人に親しまれています。
- 古くは神秘麗湖と称され富士八湖に数えられる四尾連湖周辺は、県下でも有数の景勝地として知られており、山上の天然湖として神秘性に富んだ景観は、四季を通じて多くの人々が訪れています。
- 本町は、豊かな水環境を背景に和紙の伝統産業が育まれてきました。このため、まちなかには現在も水路網が残されています。この水路網に沿って祠や道祖神がたたずみ、「ひや」と呼ばれる路地空間とともに、独特の中心市街地景観を形成しています。

②複雑な地形が生み出す多様な山地景観と森林景観

奥行きのある芦川の渓谷景観、市街地の背景をなす山の森林景観、複雑な山巒に抱かれた山間地の里山集落景観、六郷地域のゆるやかな圍繞景観など、大地の息吹が作り出した多様な山地景観と森林景観が展開しています。



・四尾連湖周辺の森林



・富士見ふれあいの森公園の散策路

- 町域の多くは御坂山地西端の中山間地で、細かい山巒が複雑に延び、地域景観を分節化しています。この他、山麓に展開する丘陵地、笛吹川、富士川沿いの平坦地、西部の富士川の大きな谷筋など、多彩な地形構造により変化に富んだ景観が展開しています。
- 町の約6割を占める森林の多くは、御坂山地の山々に広く分布し、本町の豊かな環境と自然景観の骨格を形成しています。
- 複雑な山間地の地形の中で、比較的地形構造が明瞭な芦川の谷筋と甲府盆地に面する山の斜面林は、人々の活動領域からの視認性が高く、景観的には重要な緑となっています。
- 四尾連湖周辺や芦川渓谷の豊かな自然は、景観だけでなく貴重な動植物等の生息地でもあり、自然レクリエーションの場として親しまれ、観光拠点ともなっています。

③盆地や山並みの優れた眺望景観、美しい夜景

甲府盆地を眼下に一望し、盆地を取り囲む名峰や山並みをパノラマ状に見渡せるダイナミックな眺望景観が展開しており、本町の魅力のひとつとなっています。この他、蛾ヶ岳や日向山など町内には良好な眺望ポイントが数多く点在しています。



・みたまの湯からの夜景



・蛾ヶ岳からの富士山の眺望

- 曾根丘陵の西端にあたるみはらしの丘、蛾ヶ岳や大畠山から平塩の岡へと連なる尾根筋や登山ルートからは、甲府盆地や背景の山並みが一望でき、パノラマ景観を楽しむことができます。
- 甲府盆地や背景の山々を一望し、夜景を誇るみはらしの丘・みたまの湯は、眺望を楽しみながら入浴できる温泉施設として人気の場所となっています。
- 富士山全景を眺望できる蛾ヶ岳、ダイヤモンド富士を望む日向山など、富士山のビューポイントも数多く点在しています。
- この他、平塩の岡や烽火台跡、金川曾根広域農道など、山麓や丘陵地周辺には、パノラマ景観を望む良好な眺望場所（ビューポイント）が潜在的に分布しています。
- また、笛吹川や富士川等の水辺空間と一体となった山並みの眺望や、桃林橋、三郡橋、月見橋などの橋梁、公園など、日常の身近な場所にも良好な眺望場所が数多く分布しています。

④のどかな田園景観と里山が一体となった農山村景観

河川沿いの平坦地や丘陵地に広がるのどかな田園景観と山の辺に寄り添う農山村集落景観、山間地の果樹園や畑地、棚田の風景など、それぞれに特色ある郷土景観を形成しています。



・上野地区の田園・集落・里山が一体となった景観



・急斜面に展開する網倉集落の農山村景観

- 大塚、上野、市川、高田、岩間、宮原地区などに優良農地が広がり、町内ではまとまった田園景観が展開しています。
- 特に、土地が肥えていたことから「大塚田んぼ」と呼ばれた大塚地区は、町内随一の農業地帯であり、緩やかな扇状地に優良農地が広がる本町の代表的な農村景観を呈しています。
- 中山間地域には、平坦地の水田を中心に果樹や畑地が分布し、網倉など山間地では段々畑がみられます。複雑な地形による厳しい地形条件下で培われた農の風景や山村景観は、地域の永い営みが映し出された独特の景観美を放っています。
- 里山は、市街地後背の斜面樹林地や芦川の谷筋、六郷地域の山麓や丘陵地、新川、山田川、葛箆沢川などの身近な河川や沢筋などにかけて広く分布しています。
- 市街地後背の里山や山間集落地周辺などの里山景観、地形に添った景観美を呈する段々畑の風景など、里山と農地、小さな集落地が一体となった農山村風景は、本町の原風景となっています。

⑤山梨県の古代文化の発祥、甲斐源氏発祥の面影を残す風景

本町は、山梨県の古代文化発祥の地、甲斐源氏発祥の地といわれ、古墳や石仏、平塩の岡に代表されるように貴重な歴史文化遺産が町の至るところに息づいています。



・伊勢塚古墳の桜



・平塩の岡に建つ甲斐源氏旧趾

- 本町の起源は古く、山梨県の古代文化発祥の地といわれており、葛箆沢地区の石仏遺跡や、大塚地区の縄文から古墳時代にかけての遺跡や古墳など、貴重な文化遺産が数多く出土しています。
- また、甲斐源氏旧趾を始め、甲斐源氏ゆかりの史跡群や市川陣屋跡、由緒ある社寺など、数多くの史跡等が分布し、西八代・峡南地域の経済と文化の中心であった、誇りある歴史文化資産が町のいたるところに息づいています。
- 市川地区中央部の南側丘陵地一帯は平塩の岡といわれ、甲斐源氏発祥の地、市川地区の成り立ちの礎となつたとされています。周辺は、眺望にも優れ、天台百坊といわれた歴史、夢想国師由縁の庭園、多くの旧跡、神社等が集積するなど歴史文化を背景としたシンボリックな景観を擁しています。また、正の木稲荷神社等は、身近な桜の名所として近隣町民に親しまれています。

⑥歴史文化資産が自然や暮らしにとけこんでいる風景

市川地区中央部などの本町を代表する歴史文化的なまちなみ景観、歴史的な建造物、伝統産業が培った文化的景観、身近な歴史資源など、本町のアイデンティティともいえる数多くの歴史文化資産が自然や暮らしにとけこんでいるところに本町の地域景観の特徴があります。



・「ひや」と呼ばれる路地



・市川陣屋跡



・手漉き和紙

- 本町には、駿州往還、中道往還などの古道・旧街道や、富士川舟運などの歴史のみちすじが残され、周辺には往時をしのばせるまちなみや歴史資源も多く分布しています。
- 中心市街地である市川地区中央部は、江戸時代に市川陣屋がおかれ、今でもまちの中に江戸期の町割、通り、「ひや」と呼ばれる路地、水路が巡り、辻空間が残るなど、往時の面影を残す風情あるまちなみ景観がみられます。
- また、市川教会などの本町を代表する歴史的建造物や土蔵造りの商家、洋風建築物など、往時の繁栄を伝える近代化遺産や、歴史を感じさせる趣きのある建造物が数多く残されています。
- 本町は、豊かな水が育んだ和紙や書、信玄時代の烽火が始まりといわれる花火、山峡の暮らしの知恵が育んだ印章技術などが、「和紙」「花火」「印章」という伝統産業として今なお受け継がれ、本町の重要な文化的景観となっています。
- その他、社寺、古民家、蔵、土塀等の建造物、祠、道祖神、石仏等の小さな史跡、水路、小川、堰など、自然や暮らしにとけこんだ身近な歴史的景観資源が数多くみられます。

(2) 暮らしや営みが映し出されている景観

①地域の成り立ちや暮らし方が色濃く残る市街地景観

まちの中心市街地を形成している市川地区中央部、地域の中心となっている岩間地区や上野地区の幹線道路沿いなどは、古くからの地割や地域資源、商店などが集積し、地域の成り立ちや暮らし方が色濃く残る市街地景観を呈しています。



・中央通り商店街



・岩間地区中心部のまちなみ



・上野地区中心部のまちなみ



・市川地区中央部の住宅密集地

- 市川地区中央部は、本町で最も古くから形成された市街地です。江戸時代から続く「ひや」と呼ばれる路地や水路が宅地内を縦横に走り、繁栄の歴史を感じさせる町屋、土蔵、社寺、洋風建築物や昭和期のモダンな建物など、重層する歴史の面影が残る、落ち着いたたたずまいのまちなみ景観がみられます。
- 岩間地区の主要地方道市川三郷身延線沿道には、印章店の看板や印章資料館前の日本一の巨大はんこなど、印章のまちを想起させる景観資源がみられます。
- 上野地区の主要地方道甲府市川三郷線沿道には市川地区から連担する市街地が形成されており、三珠地域の生活拠点としてのまちなみ景観がみられます。
- 既存商店街は、こうした町内の市街地を中心に、市川地区中央部の中央通り商店街や六郷地域の甲斐岩間駅周辺に、商店等が連続または点在するまちなみ景観が形成されています。その他、三珠地域の上野地区、JR 鯉沢口駅付近や黒沢地区などにも暮らしに身近な商店等の集積がみられ、新たな魅力づくりや賑わいの再生に向けた取り組みが行なわれています。
- 古くから中心地として形成された市川地区中央部をはじめ、その周辺や近傍に位置する高田、上野、大塚地区などの市街地においては、住宅の密集地も多く、そうした状況がまちなみ景観にも反映しています。その他、立地や土地利用などにより、地域それぞれの暮らしぶりが色濃く残る市街地のまちなみ景観をみることができます。



・市川地区中央部周辺の既成市街地

②古くからの農村集落景観と新しい景観が併存する郊外部の景観

市川地区の中心市街地外縁部から笛吹川沿いの平坦地にかけては、広い田園と古くからの農村集落地の中に新しい住宅地、商業店舗、工業地などが併存する景観が展開しています。



・宅地化が進行する高田地区の新しいまちなみ



・大塚田んぼと呼ばれる広々とした田園



・大塚工業団地

- 中心市街地の中でも高田地区周辺は宅地化が進行し、比較的新しいまちなみ景観となっています。また、近年計画的に整備された富士見団地などでは、ゆとりと統一感のあるまちなみ景観もみられます。
- 中心市街地外縁部から笛吹川沿いの平坦地にかけては、大塚田んぼに代表される広々とした田園景観が広がり、丘陵地では豊穡な土壌をさす「のっぴい」の畑地が広がっています。こうした農の風景は、背景の里山や昔ながらの農村集落地と一体となって、豊かで美しい農村集落景観をみせています。
- また、市街地周辺や郊外の田園地帯、古くからの農村集落地などでは、田園景観や伝統的な集落景観の中に新たな住宅地景観が出現しており、景観的な混乱も一部みられます。
- 工業地等は、主に住宅地周辺や、笛吹川、芦川等の河川周辺、国道 140 号等の幹線道路沿道に立地しています。特に、県内有数の工業団地である大塚工業団地は、本町の産業拠点であり、計画的に整備された基盤に工場や倉庫が立ち並ぶ工業地景観をみせています。比較的規模の大きな建物が多く、中には、沿道や外周部に工場緑化を施すなど、周辺景観への配慮した施設もみられます。

③里山に抱かれて寄り添う中山間地域の集落景観

中山間地域や丘陵地に立地する古くからの集落景観は、その立地や家並み、地形に沿った道などに自然な秩序があり、それぞれに特色ある集落景観が形成されています。



・山保の藤田集落



・芦川沿いの中山集落

- 中山間地域や丘陵地に立地する集落地は、古くから形成されたものが多く、山地の緩傾斜地や山麓の山の辺などに大小様々な集落地がみられます。これらは、地形に沿った道や集落の配置、古民家や蔵などの建造物と家並み、屋敷林、農業用水路などが、周囲の里山や農地と一体となった集落景観を形成しています。
- 長く深い谷地形を形成している芦川沿いでは、極めて少ない緩傾斜地に寄り添うように集落が点在しており、両側に迫る斜面の森林景観や芦川の溪流景観と一体となって、谷合い独特の集落景観を呈しています。
- こうした集落景観には、自然との共生の中で先人たちが形成してきたまちづくりの作法や配慮がみられ、風景の背後にある一定の秩序を感じとることができます。

④ 交流を育む道路や公園などの施設の景観

道路をはじめ、公園・広場、主要な公共施設、大きな土木構造物などは、町民が日常利用し目にするものであり、それらの施設や構造物は、地域景観を特徴づけるものとなっています。



・都市計画道路役場前線



・金川曾根広域農道沿いの桜



・市川大門駅



・富士見ふれあいの森公園



・市川三郷町庁舎（本庁舎）

- 本町には、河川沿いや田園地帯の開けた沿道景観が展開する道路や、中央通り、南線、北線と呼ばれる古くからのまちなみ景観が展開する道路、丘陵地の眺望に優れた金川曾根広域農道、芦川溪谷沿いの道路、山間地域をぬうように走る道路など、多様な景観的特色をもつ道路が多くあります。道路は、地域を眺める最も基本的な視点場でもあるのです。
- 本町はJR身延線が通り、鉄道駅が7駅もあることが特徴のひとつです。身延線はローカル電車としての魅力を持っており、河川を眺めながら橋梁を越え、田園地帯から山里に入る車窓からの眺めは魅力的であり、沿線には地域ごとに多様な景観が展開しています。また、各駅舎も、ローカル線の素朴なたたずまいの中で地域性を表したものがみられます。
- 本町には、歌舞伎文化公園、大門碑林公園等の歌舞伎や書道をテーマとした町の文化を象徴する公園や、波場公園、市川公園等の眺望に優れた公園、また、富士山のみえる高台に位置し、自然散策路やレクリエーション施設の豊富な富士見ふれあいの森公園など特色ある公園があり、地域住民に親しまれているとともに、魅力ある景観を形成しています。
- 駅舎をはじめとして、庁舎や文化交流施設、小・中学校等の教育施設、公民館等のコミュニティ施設、病院、福祉施設、温泉入浴施設、農産物直売所などの公共施設は、多くの町民や観光客等に利用され、交流や賑わいの場となっているほか、それぞれに個性のある施設デザインは、まちや地域のシンボル・目印として地域景観を特徴づけています。また、これらの施設では、景観に配慮した意匠やデザイン、町民による緑化や花植えなど、様々な景観形成の取り組みが行われています。
- 笛吹川や富士川に架かる大きな橋は、広い河川や農地の中で周辺からもよく視認され、地域のランドマークとなっています。また、芦川沿いには、近代土木遺産である発電所が3箇所あり、自然景観や溪流景観とともに歴史的な土木構造物もまた、地域景観を特徴づけるひとつとなっています。
- 中部横断自動車道の延伸整備が進む（仮称）六郷IC周辺は、山並みや里山を背景とした田園景観と穏やかな農村集落景観が広がり、地域振興への期待とともに、良好な景観への配慮や工夫が求められています。

⑤祭りの賑わいや彩りある四季の風景

本町は、年間を通して行われる様々な伝統行事やイベントが、まちの賑わい景観を演出するとともに、地域の歴史文化や暮らしぶりを伝える大切な風物詩となっています。また、芦川溪谷や四尾連湖などの豊かな自然景観に加え、四季折々の草花が地域景観に彩りを添えています。



・神明の花火



・神輿の川渡し（御幸祭）



・歌舞伎文化公園のぼたんの花



・甘々娘の収穫体験



・宝寿院のしだれ桜



・下大鳥居のアジサイ



・寺所のコスモス

- 市川三郷町は、昔から職人が多く、巨摩・八代地方の交通、経済、文化の中心地であったため、「市川の百祭り」といわれるほど、祭りの盛んなまちです。

こうした伝統は今日にも受け継がれており、毎年20万人を超える観光客で賑わう神明の花火大会や、御輿の川渡し、ぼたんの花まつり、地場産業祭や収穫祭など、年間を通して多くの祭りや伝統行事、イベントなどが行われており、多数の町民や観光客が訪れる風物詩となっています。

これらの賑わいある行祭事の風景は、まちに活気をもたらすとともに、本町のイメージを発信する重要な機会や場となっています。

- 本町には、三珠支所周辺や甲斐岩間駅の桜並木、寺所さくらの里など、町民により育まれた身近で親しみある花の風景がみられます。その他、花や紅葉の季節になるとぼたん回廊、芦川溪谷や四尾連湖の紅葉、ミスミソウの自生やカタクリの群生などが、多くの人々の心を癒し、楽しませてくれます。また、ぼたんの花まつりといった花に関わるイベントも開催されるなど、花や紅葉は本町の風物詩として四季を彩る重要な風景となっています。

- 水田や野菜畑・果樹園など農地が広く分布する本町では、一年を通じて、田植えや稲刈り、野菜・果樹の手入れや収穫など、様々な営農風景を目にします。また、中山間地域の棚田などの営農風景は、郷愁を感じる素朴な郷土景観となっています。

本町はグリーンツーリズムの先進地でもあり、来訪者を含めた甘々娘や大塚にんじんの収穫風景、収穫祭の賑わい景観なども、本町ならではの生業と交流の風景といえます。

3. 景観づくりについての主な住民意向

景観計画の策定にあたっては、初期の段階から、「風景づくり住民懇談会」の開催や、「市川三郷町景観住民アンケート調査」を実施するなど、多くの住民意向を聴取し、計画への反映に努めてきました。ここでは、これらの主な住民意向を次のように整理しました。

(1) 風景づくり住民懇談会の提案

開催期間：平成23年12月9日～平成24年10月10日 計6回開催（提案書提出含む）
 懇談会の概要：公募・地域推薦等による30名の住民
 開催概要：ワークショップ方式による検討、「風景づくり住民プラン」のまとめ、提案書の提出

風景づくり住民懇談会では、「風景資産を守り、これらと調和・共生する風景づくりを進める」、「風景の背景にある暮らしぶりを地域らしさとして活かす景観づくりを進める」、「風景への関心や興味などの意識を醸成し、みんなで風景を育む」を大切な視点として共有し、次の4つのテーマと、全てのテーマに含める「市川三郷町の歴史文化を守り・活かす」を重点テーマに提案づくりを行いました。

■風景づくり住民懇談会の主な意向

※重点テーマに対する提案より

重点テーマ*	主な提案
1. 優れた自然景観や眺望を守り・活かす	○豊かな森林を守る／河川と土手の風景を活かす／水辺と四季折々の風景を活かす／リバーツーリズムの展開／ホテル等の生息環境を守る／丘陵地の地勢的条件の優れた眺望を活かす／眺望場所を守り・活かす／自然と歴史の眺望を活かす／治水・地滑り等の防災との調整、ごみのポイ捨て・不法投棄対策 など
2. 農と里山の風景を守り・活かす	○大塚・矢作などの広がりある豊かな田園景観と優良農地の保全／網倉、楠南などのふるさとの原風景である集落景観の保全／美しい里山の維持・保全／里山ツーリズムの展開／身近な歴史資源の活用／四季折々の花の風景の活用／地域の伝統行事・祭りの風景づくりへの活用／鳥獣害対策への対応 など
3. 市川地区中央部のまちなみ景観をつくる	○市川の原点「平塩の岡」から展開する風景づくり／暮らしのみちと「ひや」の活用／眺望に配慮した美しいまちなみづくり／七軒町や陣屋など歴史的まちなみの保全／市川教会や蔵などの歴史的建造物の保全と活用／身近な景観資源の活用／歩いて楽しむまちなみづくり／心地よく暮らせるまちなみの改善 など
4. 地域特性を活かした市川三郷町らしいまちなみ景観をつくる	○地域の暮らしぶりを風景づくりに活かす／無秩序な郊外の開発抑制とまちなみ景観の改善／歩道のバリアフリー整備など歩きやすい歩行者のみちづくり／良好なみちの風景づくり／地域の風景になじむ公園等の施設周辺の景観誘導／潜在的な資源の活用／六郷 IC 周辺整備の景観誘導 など
●必要な手だて・仕組みづくり	○まち独自の「景観条例」など最低限のルールづくり／地域資源を顕在化する仕組みづくりと景観まちづくりへの活用／風景づくりの意識啓発の仕組みづくり／わかりにくい資源の活かし方・PRの工夫！／力をあわせてみんなで景観づくり（地域住民による維持管理の仕組み、既存の住民活動の人材登用とネットワークづくり、人材発掘と地域リーダーなど人材育成、若者への参加呼びかけ） など

注) * 重点テーマ「市川三郷町の歴史文化を守り、活かす」に対する提案は、上記の全ての提案に含まれています。



・風景づくり住民懇談会ワークショップ

(2) 市川三郷町景観住民アンケート調査

調査対象：市川三郷町全域、20 歳以上の住民 1,500 人（票） ※無作為抽出
 調査期間：平成 23 年 11 月 9 日～11 月 23 日
 配布・回収方法：郵送による配布・回収
 回収結果：回収数 511 票、回収率 34.1%

住民アンケート調査からは、町民の景観への高い関心や景観形成への強い参加意向の他、祭りや伝統行事・イベント、眺望景観、清流と水辺の景観等を大切に思う傾向が強く、今後、行事や祭り等の風景、郷土の自然景観、農の風景と、暮らしびりがみえる景観形成を望む傾向がうかがえます。

■景観アンケート調査による主な住民意向

※上位回答の傾向を整理

設 問	主 な 意 向
市川三郷町の景観の現状 <ul style="list-style-type: none"> ●景観やまちなみへの関心 ●市川三郷町の景観全体の評価 ●特に大切にしたい・自慢したい景観 ●近年の景観の変化 <ul style="list-style-type: none"> ○市川三郷町全体の景観の変化 ○地域の身近な景観の変化 ●景観を損ねている要因 	<ul style="list-style-type: none"> ・多少関心があるが約半数、大いに関心があるが約 3 割と、関心があるとする回答は全体の 8 割を占め、景観への関心度はかなり高い ・多少素晴らしいと感じるが約 4 割強、景観を素晴らしいと感じている回答は全体の約 7 割強を占め、景観への関心だけでなく評価も高い ・「太々神楽、御幸祭、神明の花火大会、ほたんの花祭り、収穫祭などのお祭りや伝統行事、地域イベント」が多く、その他、眺望景観、清流と水辺の景観、四季折々の花の風景など、本町固有の風景も多い ・半数以上の住民が町全体の景観は変わらない、または悪くなってきているとし、観光レクリエーション・交流施設周辺の景観、まちや地域の中心となるまちなみ景観、水辺の景観などは良くなったとする一方、約半数の住民は、中心市街地や中心商店街のまちなみ景観が悪くなってきているという回答 ・約 5 割強が変わらないとする一方、多くの住民は、景観は悪くなってきていると懸念する傾向を示し、道路や水路の景観は良く、身近な自然景観は悪くなったという傾向。また、地域の雰囲気と景観については良くなった・悪くなった双方の意見が相反して高い ・維持管理のされない水路や遊休農地、ごみの不法投棄、電柱・電線類、鉄塔、携帯アンテナ塔、農地・森林等の無秩序な開発など、維持管理やルール・マナー、美観、開発行為に関わる阻害要因が多い
今後の景観づくり <ul style="list-style-type: none"> ●重要と思う景観づくり ●良好な景観づくりのために必要な手法 ●景観づくりに今後必要なルール ●建築物の高さのルール ●看板など屋外広告物の規制 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統行事の継承やイベントの活性化、農地の保全と遊休農地等を活用した風景づくり、清流・水辺景観の維持・保全、花の名所を増やす等が多い ・行政による景観計画、景観条例等の指針づくりや開発抑制、規制・誘導、住民の環境美化活動や景観形成活動への参加が必要との意見が多い ・建築物や工作物の設置や意匠などのデザインルール、敷地緑化や樹木保全のルール、看板や広告物の設置、意匠のルールなど、住民自らによる景観形成の啓発も含めた何らかのルールが必要との意見が多い ・配慮すべきエリア内に限っての制限や町全域で何らかの制限が必要との意見が 7 割近くを占める ・「現行の県条例の規制をより周知し、ある程度は規制すべきである」が 6 割強を占める
景観形成への参加 <ul style="list-style-type: none"> ●景観づくり活動への参加意向 ●景観形成のための協力意向 ●住民の景観づくり活動への支援策 	<ul style="list-style-type: none"> ・「時間等の都合がつけば参加したい」が 5 割近くで、何らかの参加意向は 5 割強と高く、関心も含めると参加意向は高い ・自発的な緑化・美化活動や身の回りのルール・マナーの徹底、イベントを通じた身近な景観の周知など、暮らしに身近な場からの景観づくりへの協力意向が高い ・積極的な情報公開を最も重要とし、行政による地域の景観形成活動へのサポートや協働による景観形成のしくみづくり、人材育成など望む傾向が高い

4. 景観形成に向けた課題

市川三郷町の景観特性や景観形成に関する動向、多様な町民意向などを踏まえ、今後の景観形成に向けた課題を次のように整理します。

①水辺や森林などの豊かな自然景観や眺望景観を守り、活かすこと

本町の地形構造を土台として、笛吹川や富士川の河川景観、まちなかを巡る水路や堰、芦川溪谷や四尾連湖の清流と四季折々の風景、変化に富む山並みと緑深い森林景観、多彩で優れた眺望景観などは、町民共有の大切な資産です。

これらを損なうことのないよう、郷土の基調となる風景として厳正に保全するとともに、身近に親しみ、ふれあうことでその価値や魅力を再認識し、高めていくことが必要です。

【配慮すべき主な視点】

- 変化に富む地形構造を尊重し、景観に配慮すること
- 森林の維持管理と保全、再生に努めること
- 市街地後背の斜面樹林・里山を守ること
- 清流の保全と水辺景観の有効活用を図ること
- 暮らしや生業とつながる水文化の再生と魅力を高めること
- ホテルの生息地などの生物生息環境を守ること
- 自然に親しみふれあう取り組みを進めること
- 雄大なパノラマ景観、夜景、自然と歴史が融合した眺望等の優れた眺望景観を守り、活かすこと
- 良好なビューポイントの魅力を高めること

②先人たちに育まれた市川三郷町固有の風景や郷土景観を継承し、活かすこと

本町には、山梨県古代文化の発祥や甲斐源氏発祥の地といわれる由緒ある歴史、古くから培われた歴史文化や伝統が色濃く残る、内外に誇れる風景があります。

また、平坦地に広がる田園景観、丘陵地や山の辺に展開する農村集落景観、奥行きある中山間地域の農山村集落景観など、それぞれの地域に永い年月をかけて育まれた、特色ある集落景観がみられます。

このような脈々と育まれてきた風景を、次世代に継承するとともに、市川三郷町らしさを表象する景観として活かすことが必要です。

【配慮すべき主な視点】

- 山梨県の古代文化発祥の地といわれる文化遺産や史跡等の風景を守り・活用すること
- 平塩の岡周辺のシンボル景観を顕在化すること
- ひや・水路・町家・蔵・辻など市川地区中央部の特色あるまちなみ景観を守り・活かすこと
- 歴史的建造物の維持・保全、旧街道や富士川舟運の歴史のみちすじを景観づくりに活かすこと
- 潜在的な歴史資源を景観づくりに活かすこと
- 伝統技術の継承と、生業や営みが育んだ文化的景観を景観まちづくりに活かすこと
- 大塚地区などの豊かな田園景観を保全すること
- 農の風景を維持・保全し、農の交流を育むこと
- ふるさとの原風景となる里山と農山村集落景観を守り・育むこと

③地域の個性を尊重しながらも、背景を含め全体として整序感のあるまちなみ景観をつくること

本町は、平坦地から山岳までの起伏のある地形、市街地や集落などの成り立ちや歴史文化、人々の暮らしや生業などから、それぞれの地域ごとに特色あるまちなみ・集落景観が展開しています。

市川三郷町らしい景観を創出するためには、こうしたそれぞれの地域個性を尊重し、周辺景観と調和した景観づくりが大切です。

そのためには、まち全体の景観形成の考え方を明確にし、個性をみがきながらも、その表情に整序感を持たせた、魅力あるまちなみ景観の創出を図ることが必要です。

【配慮すべき主な視点】

- まちの顔となる中心市街地(市川地区中央部)の先導的な景観まちづくりを推進すること
- 木造住宅密集市街地の改善を図ること
- 地域の景観拠点の魅力づくりを進めること
- (仮称)六郷 IC 周辺の、自然景観や里山、農山村集落景観と調和した景観を誘導すること
- 地域景観と調和した個性あるまちなみ景観づくりを進めること(住宅地景観、中山間地域の集落地景観、幹線道路沿道、工業地景観など)
- 中央通り商店街など、賑わいと活気ある商店街のまちなみ景観を再興すること
- 多くの人が目にする場の魅力を高めること(まちなみ玄関口、道路、公園、公共施設など)

④ 交流を育み、まちや地域が元気になる風景づくりを進めること

市川三郷町は「市川の百祭り」といわれるほど、祭りの盛んなまちです。歴史や生業に培われた祭り、各集落の特色ある伝統芸能や行事、四季折々の花の風景、収穫祭のイベントなど、四季を通して、住む人も訪れる人も楽しむ風景が風物詩となっています。

また、住民懇談会の提案やアンケート調査においても、「祭りや伝統行事、地域イベント」は、本町の風景づくりにとって不可欠なものとの意見が多くあります。

これらを市川三郷町らしさとして景観づくりに活かすことは、風景を介した交流による地域振興や観光振興、さらにはまちの文化の継承につながるものです。まちへの誇りや愛着を育むためにも、多くの人との交流を介し、地域活力が高まる景観づくりを進めることが必要です。

【配慮すべき主な視点】

- 祭りや伝統芸能・行事を継承すること
- 伝統の技や伝統産業を活かした交流の風景づくりを進めること
- 収穫祭や農業体験、新たな観光農業、グリーンツーリズムなど農を介した交流を進めること
- 花の名所など、身近に潤いや彩りを与える、四季折々の景観資源を維持・保全し、おもてなしの風景として景観づくりに活かすこと
- 多様な景観資源を結びつける観光ルートや景観ルートを創出すること
- 本町の景観の魅力を多くの町民や来訪者に知ってもらうこと
- 景観の魅力の発信・PRを工夫し、充実すること

⑤ 市川三郷町らしい景観形成のための一定のルールづくりを進めること

景観は、日常の心づかいや配慮が身近な風景となって映ります。また、景観づくりは、地域に住む町民の様々な営みにより支えられ、多くの人々の理解と協力なしでは成し得ることはできません。

住民懇談会やアンケート調査においても、市川三郷町らしい景観形成のためのルールや条例づくりが望まれています。

良好な景観を維持・創出するためにも、景観を阻害する要因について少しずつ改善を図るとともに、開発や屋外広告物等に対しての一定のルールに基づく規制・誘導が望まれます。

【配慮すべき主な視点】

- 公園や公共建築物などの公共施設については、率先して景観に配慮した整備を進めること
- 大規模な土木構造物や工作物等については、周辺景観と調和した適切な景観誘導を図ること
- (仮称)六郷 IC 周辺の先導的な景観誘導を図ること(開発行為と土地利用のあり方、巨大構造物による地域の分断と風景への影響など)
- 景観に対する配慮やマナーの向上を図ること
- 景観についての地域の申し合わせや一定のルールを確立すること
- 地域の創意工夫により景観を妨げる要因を改善すること

⑥ 風景への意識を醸成し、みんなが協働で景観を育む仕組みをつくること

景観を育むためには、まず地域に住む一人ひとりが、地域の景観を知ることから関心を高め、意識を醸成することが大切です。そして、身近な景観を想う気持ちを共有し、手を携えて地域から発信し、行動していくことが重要となります。

また、町民、事業者、来訪者、行政などの各々の主体による責任と連携により、景観づくりに取り組む気運を高めていくこと、さらには、協働により実践していく仕組みづくりが必要です。

【配慮すべき主な視点】

- 協働体制による景観まちづくりを推進すること
- 景観に対する関心や意識を高めること
- 地域が主体となった景観づくりを進めること
- 町民の自発的な景観づくり活動を支える仕組みをつくること(景観づくりに関わる機会と場づくり、助成、支援の仕組みづくり、協働による維持管理の仕組みづくりなど)
- 景観まちづくりに対する行政の体制や仕組みを充実すること(景観に関する窓口、行政の推進体制や関係機関との連携、景観審議会等の景観を協議する場づくり、市川三郷町独自の景観に関する指針づくりなど)



・藤田集落の家並み